

国の推奨するがん検診

がん検診の目的

国民の2人に1人が“がん”になり、4人に1人が“がん”で亡くなっています。がん検診の目的は、無症状のうちのがんを早期に発見し、適切な治療を行うことによって、がんによる死亡リスクを減少させることです。

がん検診の種類

国（厚生労働省）は、がん検診の指針を定め、**科学的根拠に基づくがん検診を推進しています**。がんの死亡率を減少させるため、5つのがん検診を、科学的に効果が確認されている検診方法・対象年齢・受診間隔を設定し、適切な精度管理のもとで実施することとしています。

(国が推奨するがん検診の一覧)

種類	検査項目	対象年齢	受診間隔
胃がん検診	問診および胃部X線検査 または胃内視鏡検査のいずれか	50歳以上 ※当分の間、胃部X線検査については、40歳以上に対し1年1回実施可	2年に1回 ※当分の間、胃部X線検査については年1回実施可
子宮頸がん検診	問診、視診、子宮頸部の細胞診 および内診	20歳代	2年に1回
	問診、視診、子宮頸部の細胞診 および内診	30歳以上	2年に1回
	問診、視診およびHPV検査単独法		5年に1回
肺がん検診	問診、胸部X線検査 および喀痰細胞診	40歳以上 ※喀痰細胞診については、原則として50歳以上の喫煙指数（1日本数×年数）が600以上の者のみ	年に1回
乳がん検診	問診および乳房X線検査 (マンモグラフィ) ※視診・触診の単独実施は推奨しない	40歳以上	2年に1回
大腸がん検診	問診および便潜血検査	40歳以上	年に1回

対象年齢について

若い年代では、がんにかかる方が少なく、がん検診の有効性も確認されていないため、対象年齢に達してからがん検診を推奨しています。

受診間隔

一度がん検診で「陰性」と判断されても、数年後のがんが発生する可能性があるため、受診間隔に沿って、定期的に受診することが大切です。適切な間隔で受診してください。

なお、現在がんや前がん病変で治療中の方は、がん検診の再開時期は、主治医とご相談ください。

5つのがん検診を推奨している理由

がんにも、がん検診にもさまざまなものがありますが、**胃がん・子宮頸がん・肺がん・乳がん・大腸がんの5つを推奨しているのは、これらのがんは、罹患率や死亡率が高い一方で、検診を行うことで死亡率を下げる効果があることが確認されているためです。**

- ・「胃がん検診」（胃部X線検査または胃内視鏡検査）は50歳以上が対象年齢となっています。
- ・人間ドックの基本検査項目に組み込まれていますが、受診者本人の希望により、キャンセルすることも可能です。
- ※ただし、キャンセルによる自己負担の減額はありません。

市区町村が実施する「がん検診」の活用もおすすめします

お住まいの市区町村では、健康増進法に基づいて、がん検診を実施しています。がん検診の費用の多くを公費で負担しており、一部の自己負担でがん検診を受けることができます。